

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)
進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって
「理想」を創造する

努力が実る”新甘泉”栽培

2月の寒波が信じられないような陽気の中、いよいよ平成30年度がスタートしました。春は出会いと別れの季節です。入学式、卒業式、人事異動など、新年とは趣の違う改まった気持ちを感じるの私だけではないと思います。何かワクワクする気持ちにさせてくれる。春は、そんな季節ではないでしょうか。それでは、平成30年度に私が楽しみにしていることを一つご紹介いたします。それは、「新甘泉」(しんかんせん)という梨についてのお話です。皆さんは奥大山農業公社と地域おこし協力隊の公社班が、せせらぎ公園近くの銀杏(いちちょう)の段で、この梨の栽培をされているのをご存知でしょうか。日野郡では今まで作られたことがなく、本当にできないものかどうか2年前から試験栽培が始められていました。中心となつて栽培をされていたのが、



▲1本ずつ愛情をこめて育てています。

地域おこし協力隊員の藤井聖子さんと、梅木琴未さんです。私も先日ほ場に出かけてみたのですが、180本の苗がみごとに成長し、結合され、ていねいに管理されていました。草刈りや防除、水やりなどの日常的な管理はもちろんのこと、夏の暑い盛りでのタンク洗浄、肥料やり、誘引など。豪雪中、カンジキを履いてほ場に近づき、枝に積った雪を落とす作業。こうした大変な作業を一つずつこなし、ようやく今年9月に収穫時期を迎えることになりました。初収穫は1本の苗から約8個の梨が採れるそうです。それが3年後には約7倍の収穫量になるのだそうです。収穫の際には藤井さんの栽培にあたって苦労された話や、「新甘泉」への想いを町民の皆さんと一緒に考えてお聴きする場面を作りたいと考えています。

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム活動報告

新庁舎の建設に向けて取り組んできた29年度の活動も、3月でいよいよ最後となりました。

これまででは町民の皆様のご意見・ご提案を集めることに注力していましたが、今月は職員を対象とし、職場環境についてのアンケート調査を行いました。

現在、町の事務所は4つの建物にわかれています。職員はそれぞれの職場環境をどう感じているのか、建物面で使いづらいところ、困っていることはないか、改めて見直す内容となっています。

アンケートの回答は選択方式で、集計したときに職場環境の満足度が数値に表われてきます。数値データは一見すると抽象的ですが、うまく分析をすることで数字以上の情報を得ることが出来ます。町民の皆様へよりよいサービスを提案できるよう、職員にとって働きやすい職場環境を整える第一歩として、今回のアンケート結果を活

用してゆきます。



▲本年度の「3000人の楽しい町」プロジェクトチームメンバー
()は所属課
写真手前側中央 生田志保リーダー(福祉保健課)
写真手前側左 谷口宗一郎(住民課)
写真手前側右 遠藤絵美(総務課)
写真奥側左 梅林 徹(総務課)
写真奥側右 中川敦紀(教育委員会教育課)

今年度は、この5人のメンバーで活動します。

庁舎建設に関する意見交換を引き続き行うほか、新しいテーマにも取り組んでいきます。

いつも、町民のみなさんとともにすすんでいきたいと考えていますので、1年間よろしくお願います。

(リーダー) 生田

動画で町報こうふ!

以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。